

特集：佐附中生の活躍！

☆**県中学校総合文化祭 スローガン最優秀賞** (11月13日表彰) 2年3組 さいとうまひろ 齊藤磨優くん

「みなぎる感情 あふれる思い 形にしよう 私の未来」



- このような賞をいただけてとても嬉しいです。このスローガンは学校の授業の中で考えました。
- 文化部は運動部に比べると普段あまり目立ちませんが、文化部の活動には、部員の様々な感情や熱い思いが込められています。そうした感情や思いを活動の成果として形にすることは自分たちの未来につながっている、ということを伝えようと思いました。このスローガンで、文化部の活動がもっと注目されれば良いなと思っています。

☆**第12回「新聞を読んで」感想文コンクール 最高賞(下野会賞)** 2年1組 なかむらゆうな 中村優那さん



- 賞のことは全く考えていなかったのでびっくりしました。父親と母親の子育てについての記事を、自分の家族に当てはめながら書きました。新聞の内容を踏まえて自分の気持ちを書くように心がけました。(11月14日表彰)

→裏面に全文を掲載しています(下野新聞11月13日21面より)

- 「新聞を読んで」感想文コンクール(下野新聞社主催)は、新聞記事を読んだ感想文について、「十分記事を読み込んでいるか」「自分の考えなどを学年相応に表現しているか」などの観点から審査が行われ、中村さんが最高の賞を受賞しました。また、附属中からは、中1の橋本梨花さん(入選)、中2の松澤あさひさん(優秀賞)、中3の三枝詩穂里さん(優秀賞)、松村大輝くん(入選)が受賞した他、佐野高校附属中に「学校賞」をいただきました。

☆**第2回佐野市中中学生親善ディベート大会 優勝** (11月3日実施・表彰)

3年 おぎはらゆうすけ 荻原佑介くん、なかしまれいと 中島嶺斗くん、たかもりかずき 高森和希くん(以上2組)、やげたゆうと 八下田悠斗くん(1組)



優勝した4名

- 佐野市青年会議所主催で、市内4校から13チームが参加し、トーナメント形式で対戦が行われました。
- 「インターネット上の情報発信者の匿名を禁止すべきである、是か非か」というテーマで実施し、附属中3年の「佐野市ユース・ガガリン大佐の偉大なる功績を称える中学生同志の会」の4名が優勝しました。昨年度の第1回に続いて附属中のチームが連続優勝しました。
- 主将でベストディベーター賞に輝いた荻原くんは、「宇宙開発に大きな興味があったのでこのチーム名にしました。1つのテーマについて様々な視点からの意見が出ましたが、一番重要なことを取捨選択することができました。」と話してくれました。

第61回栃木県青少年読書感想文コンクール表彰式



・今回、賞をいただくことができ、嬉しく思っています。1冊の本を深く読み下げ、主人公の気持ちに近づいたり、作者の意図を汲み取ろうとしたりすることは、容易なことではありませんでしたが、自分の考えを1つの文章にまとめられた時は達成感がありました。これからたくさんの本に触れ、良い本と出会いたいです。

家族なら当たり前

佐野高付属中2年 中村 優那



「男性の家事参加促す」という見出しが目に残った。記事には、県男女共同参画審議会が、二〇一六〜二〇二〇年度を期間とする次期「とちぎ男女共同参画プラン(四期計画)」の骨子案を示したと書かれていた。

私の家は、両親、私、妹二人、弟の六人家族だ。両親は共働きをしている。子どもが生まれても仕事を続けたいという母の気持ちを尊重し、互いに協力していろいろ話し合ったそうだ。母は土曜日勤務があり、父は帰毛の遅い日が多いので、手の空いている方が食事や子どもの世話をしている。私たちが病気の時は、交代で休暇を取って看病してくれるし、母が不在の時は、父が食事を用意し、お弁当も作ってくれる。母が洗濯機にかけた洗濯物を干すのは、ほとんど後遅く帰宅する父だ。家事に協力的な父を見ているので、父親が家事をする家庭は多いと思っていたが、そうではなかった。「参加を促す」という見出しから、男性があまり家事をしていない実情を知った。

また、記事には「男性の育児休業取得率が低いことを課題に挙げ」とあった。弟や妹が赤ちゃんの時、オムツを替えたり、ミルクを飲ませたり、寝かしつけたり、

母同様在世話をした父も育児休業を取得しなかった。私は、日本の男性の育児休業取得率がどれくらいなのか調べてみた。二〇二四年度の雇用均等基本調査によると、男性の約三割が取得したいと考えているが、実際は二・三〇%だったそうだ。二〇二〇年度に二・三%という政府目標とはまだ大きな隔たりがある。併せて女性の第一子出産後の約七割が退職すること。出産後も働きたい女性にとって、家事や育児を分担する男性が増えることは不可欠である。「育児は母親がするもの」「母親が面倒を見るのが当たり前」という意識を変えなければならぬと思う。

私の家でも妹が三歳になり、時短勤務をしていた母がフルタイムで働き始めた。朝は特に忙しく、時間との戦いだ。私たちも自分のできる仕事を分担しているが、父の役割は一層増えたように感じた。この記事のことを伝えると、父は言った。

「世の中には、男性と女性しかないんだから、性別、年齢に関係なく、人として互いに思いやりをもって支え合うことが大切だよ。男性が育児休業を取りやすくするには、職場や社会の啓蒙や労働環境整備が必要だね。男性が家事や育児をすることは、女性の社会進出や活躍にもつながるよ。」

この記事をきっかけに考えた。各々の家庭状況は違っても、大事なことがある。それは、互いの立場を尊重し、感謝の気持ちを忘れないことだ。私もいつかは互いに協力し合って暮らせる家庭を築いていこうと思った。